

八女市
在宅介護実態調査
結果報告書

令和8年7月

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要.....	1
3. 調査結果の見方.....	1
第2章 調査結果.....	2
1. 基本属性.....	2
(1) 年齢.....	2
(2) 性別.....	2
(3) 二次判定結果（要介護度）.....	3
(4) サービス利用の組み合わせ.....	3
(5) 訪問系サービスの合計利用回数.....	4
(6) 通所系サービスの合計利用回数.....	4
(7) 短期系サービスの合計利用回数.....	5
(8) 障害高齢者の日常生活自立度.....	6
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度.....	7
2. A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目.....	8
(1) A票の聞き取りを行った相手.....	8
(2) 世帯類型.....	8
(3) 家族等による介護の頻度.....	9
(4) 主な介護者の年齢.....	10
(5) 介護のための離職の有無.....	11
(6) 施設等検討の状況.....	12
3. B票 主な介護者、もしくは本人に回答頂く項目.....	13
(1) 主な介護者の勤務形態.....	13
(2) 主な介護者の働き方の調整状況.....	14
(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識.....	16
(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護.....	18

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

◇本調査は、令和9年度～11年度までを計画期間とする「八女市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定にあたり、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を把握することを目的に実施したものです。

2. 実施概要

(1) 調査の対象者と配布数

◇調査の対象者と配布数について整理すると、次のとおりです。

調査名	対象者	調査数
在宅介護実態調査	在宅で生活している要支援・要介護者のうち「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をし、対象期間中に認定調査を受けた人	132

(2) 調査方法

◇認定調査員による聞き取り

(3) 抽出基準日

◇令和8年4月30日

(4) 調査期間

◇令和8年2月9日～4月30日

3. 調査結果の見方

◇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。

◇集計結果のグラフのnの値は、当該設問の回答者数を示しています。

◇集計結果のグラフ・表における“無回答”には、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、単数回答の設問における複数回答等）の件数（票数）が含まれます。

◇集計結果のグラフ・表における比率（％）は、小数点第2位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

◇2つ以上の回答を要する質問（複数回答）の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。

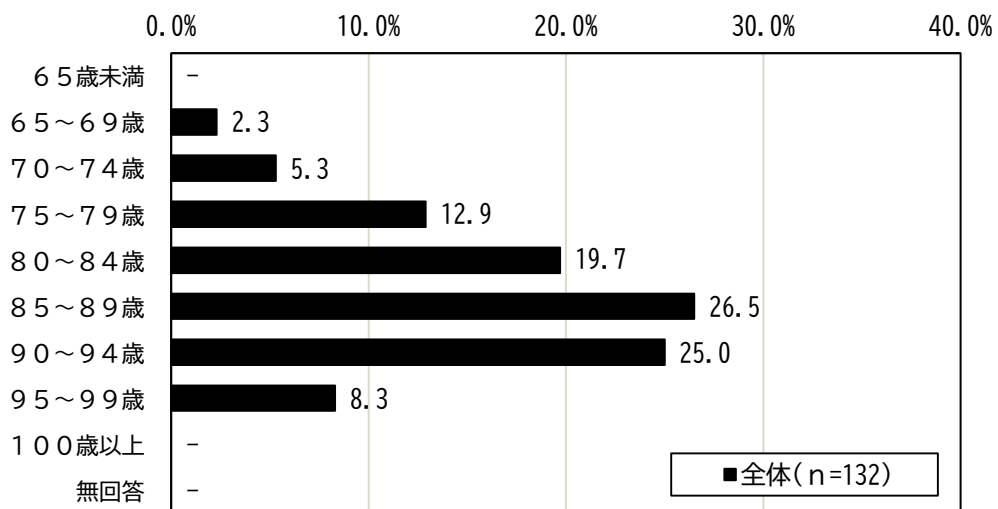
第2章 調査結果

1. 基本属性

(1) 年齢

○「85～89歳」(26.5%)の割合が最も高く、次いで「90～94歳」(25.0%)、「80～84歳」(19.7%)の順となっています。

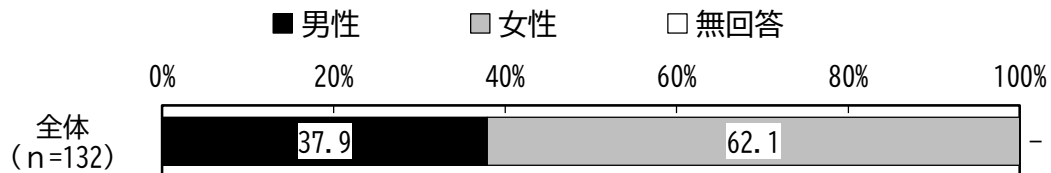
図表1 年齢



(2) 性別

○「男性」が37.9%、「女性」が62.1%となっています。

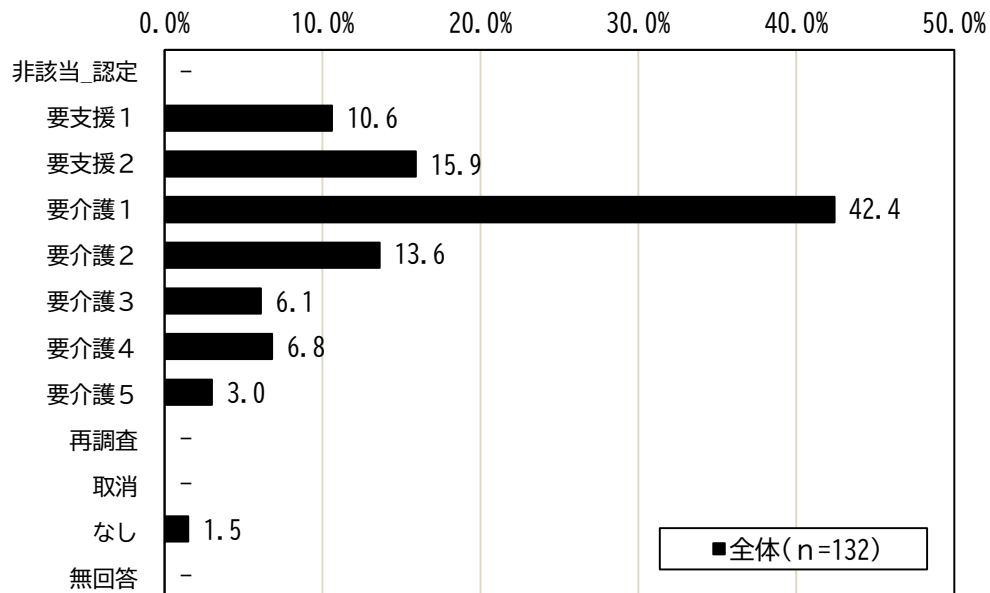
図表2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

○「要介護1」（42.4%）の割合が最も高く、次いで「要支援2」（15.9%）、「要介護2」（13.6%）の順となっています。

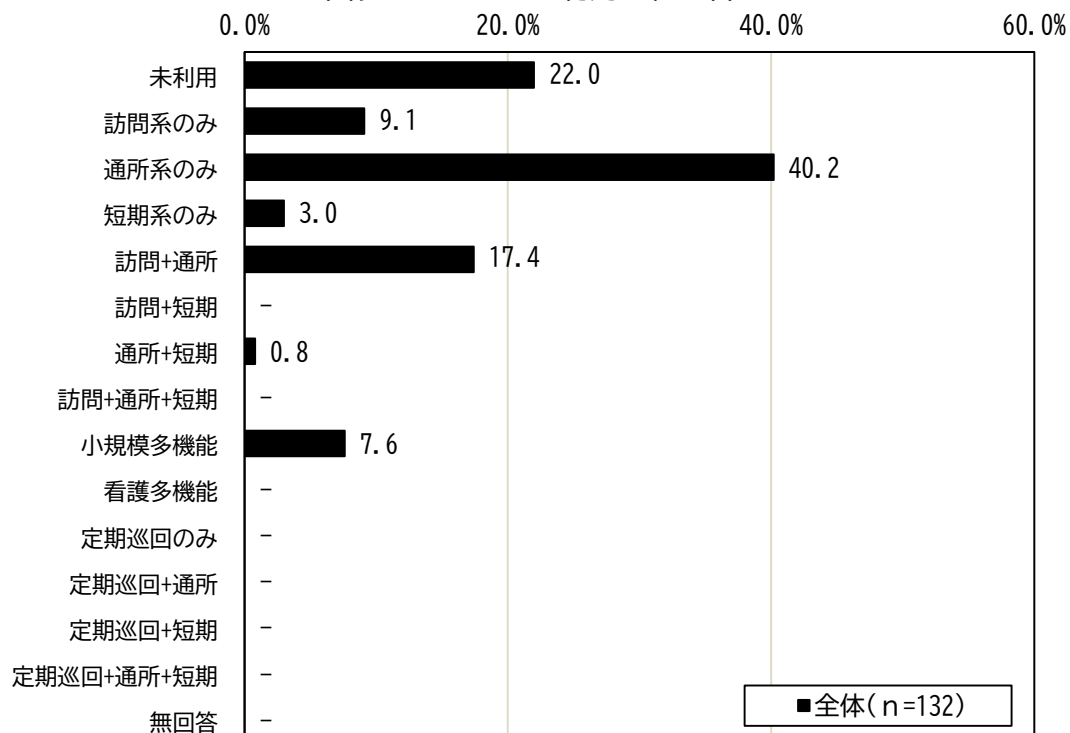
図表3 二次判定結果（要介護度）



(4) サービス利用の組み合わせ

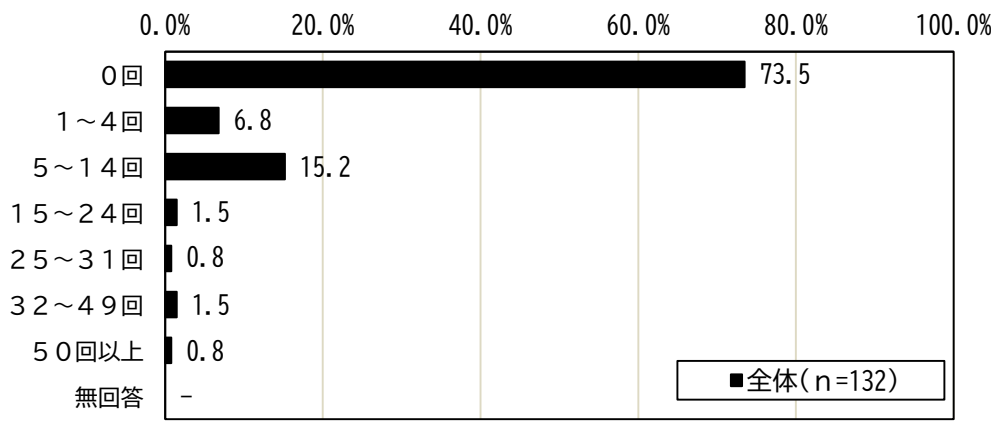
○「通所系のみ」（40.2%）の割合が最も高く、次いで「未利用」（22.0%）、「訪問+通所」（17.4%）の順となっています。

図表4 サービス利用の組み合わせ



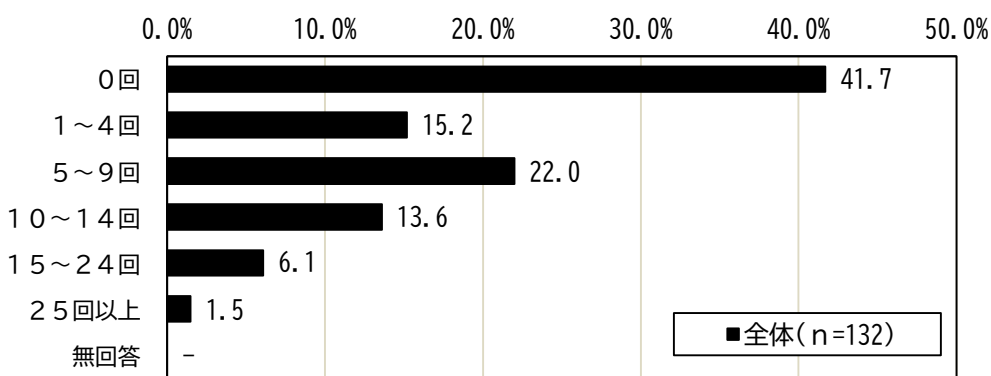
(5) 訪問系サービスの合計利用回数

図表5 訪問系サービスの合計利用回数



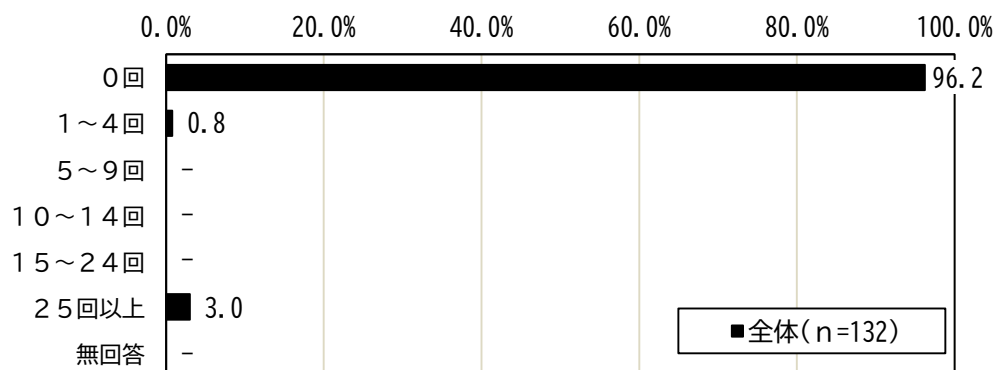
(6) 通所系サービスの合計利用回数

図表6 通所系サービスの合計利用回数



(7) 短期系サービスの合計利用回数

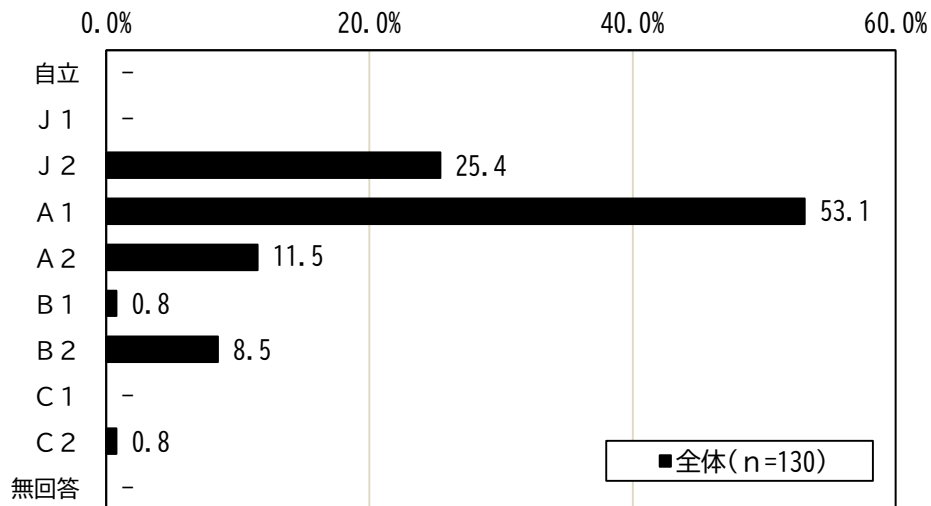
図表7 短期系サービスの合計利用回数



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

○「A1」(53.1%)の割合が最も高く、次いで「J2」(25.4%)、「A2」(11.5%)の順となっています。

図表8 障害高齢者の日常生活自立度



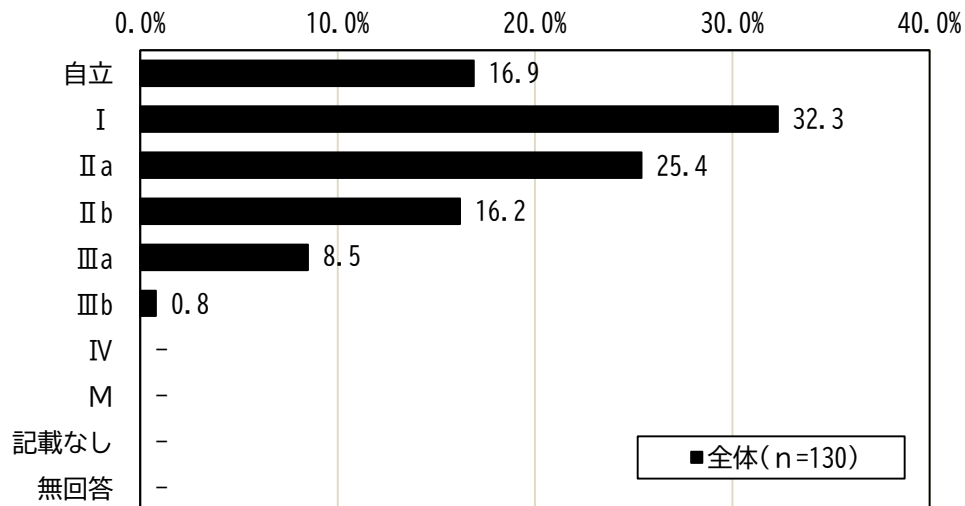
【障害高齢者の日常生活自立度の判断基準】

レベル		判断基準
生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄をベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

○「Ⅰ」(32.3%)の割合が最も高く、次いで「Ⅱa」(25.4%)、「自立」(16.9%)の順となっています。

図表9 認知症高齢者の日常生活自立度



【認知症高齢者の日常生活自立度の判断基準】

レベル	判断基準
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態 基本的には在宅で自立した生活が可能なレベル
Ⅱa	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態
Ⅱb	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内でも見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態
Ⅲa	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態
Ⅲb	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態
Ⅳ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態

第2章 調査結果

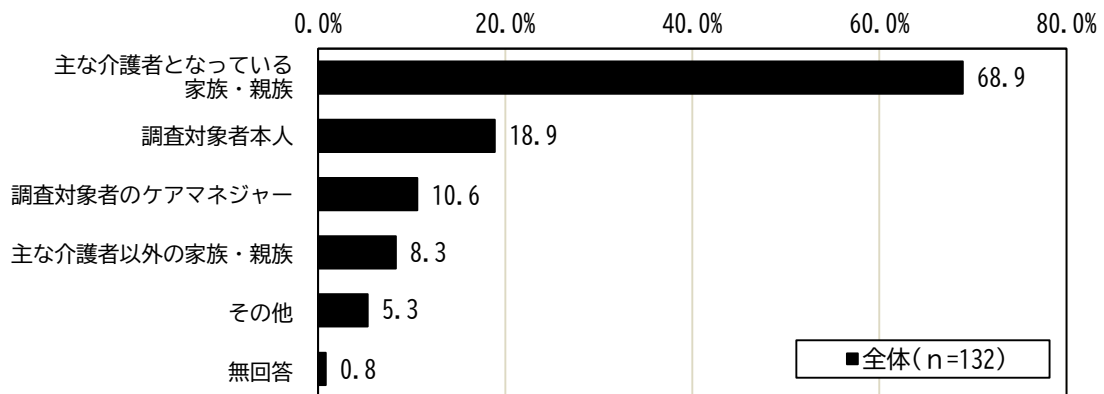
2. A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

(1) A票の聞き取りを行った相手

A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか(複数選択可)

○「主な介護者となっている家族・親族」(68.9%)の割合が最も高く、次いで「調査対象者本人」(18.9%)、「調査対象者のケアマネジャー」(10.6%)の順となっています。

図表10 A票の聞き取りを行った相手

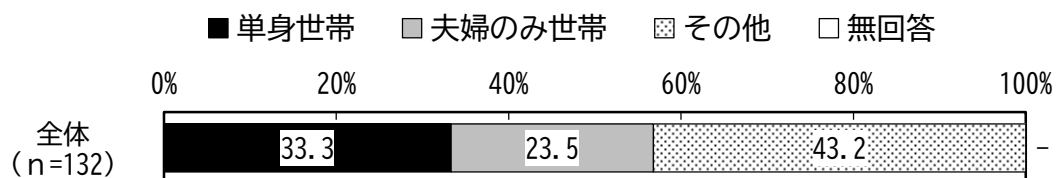


(2) 世帯類型

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

○「その他」(43.2%)の割合が最も高く、次いで「単身世帯」(33.3%)、「夫婦のみ世帯」(23.5%)の順となっています。

図表11 世帯類型

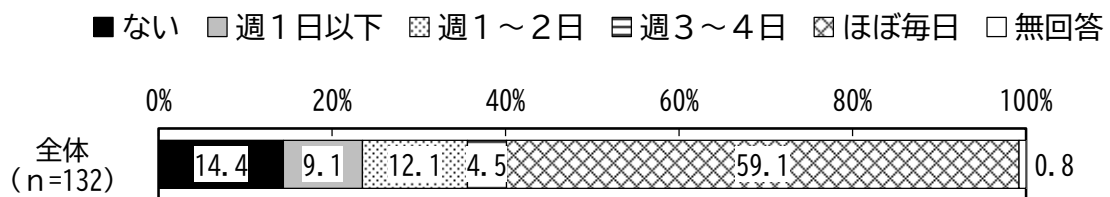


(3) 家族等による介護の頻度

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

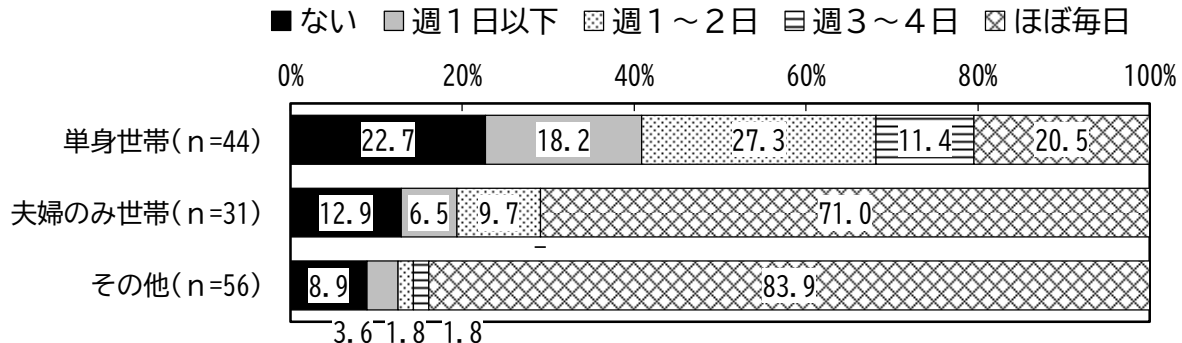
○「ほぼ毎日」(59.1%)の割合が最も高く、次いで「ない」(14.4%)、「週1～2日」(12.1%)の順となっています。

図表12 家族等による介護の頻度



○世帯類型別にみると、“単身世帯”では「ほぼ毎日」の割合が20.5%と、他の世帯類型に比べて最も低くなっている一方、他の選択肢の割合は高くなっています。

図表13 世帯類型別 家族等による介護の頻度

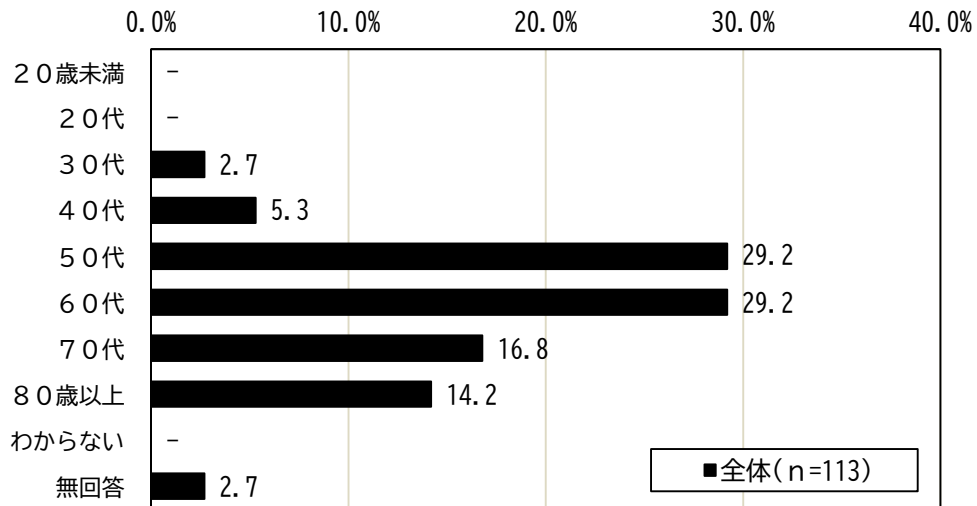


(4) 主な介護者の年齢

問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

○「50代」、「60代」(ともに29.2%)の割合が最も高く、次いで「70代」(16.8%)、「80歳以上」(14.2%)の順となっています。

図表14 主な介護者の年齢

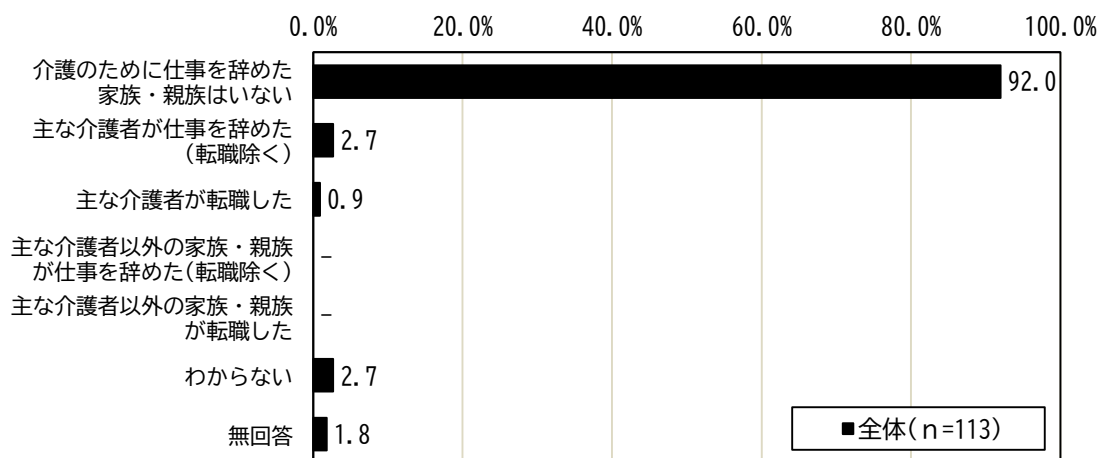


(5) 介護のための離職の有無

問4 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(92.0%)の割合が最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」、「わからない」(ともに2.7%)、「主な介護者が転職した」(0.9%)の順となっています。

図表15 介護のための離職の有無

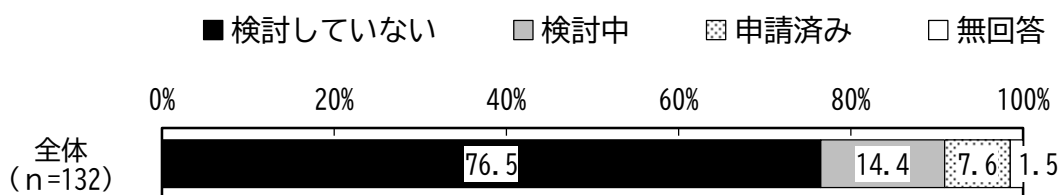


(6) 施設等検討の状況

問5 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

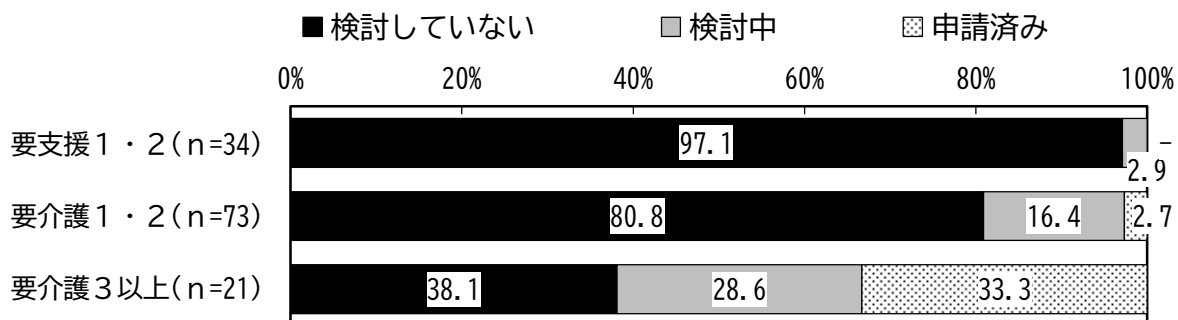
○「検討していない」(76.5%)の割合が最も高く、次いで「検討中」(14.4%)、「申請済み」(7.6%)の順となっています。

図表16 施設等検討の状況



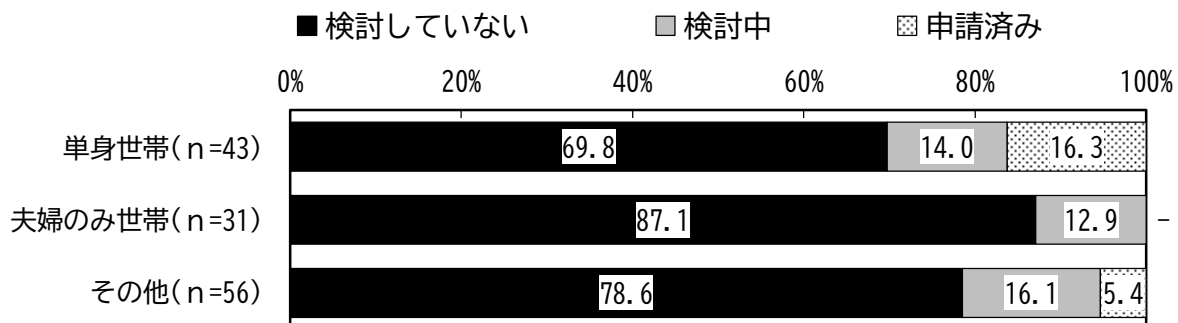
○要介護度別にみると、“要介護3以上”では「申請済み」の割合が33.3%と、他の介護度と比べて最も高くなっています。

図表17 要介護度別 施設等検討の状況



○世帯類型別にみると、“単身世帯”では「申請済み」の割合が16.3%と、他の世帯類型と比べて最も高くなっています。

図表18 世帯類型別 施設等検討の状況



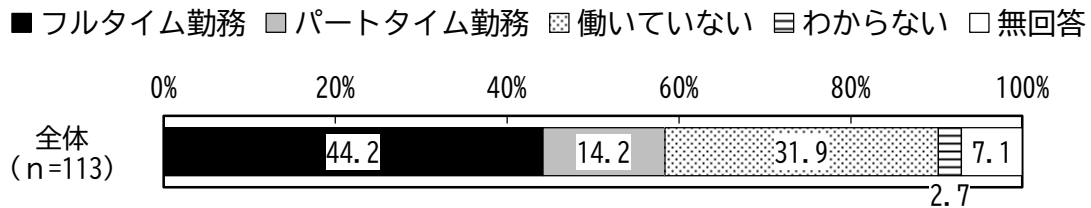
3. B票 主な介護者、もしくは本人に回答頂く項目

(1) 主な介護者の勤務形態

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

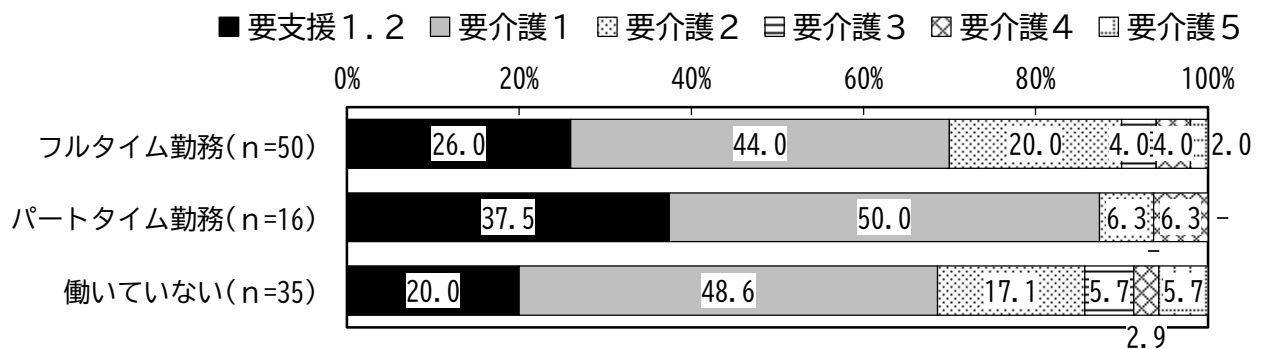
○「フルタイム勤務」(44.2%)の割合が最も高く、次いで「働いていない」(31.9%)、「パートタイム勤務」(14.2%)の順となっています。

図表19 主な介護者の勤務形態



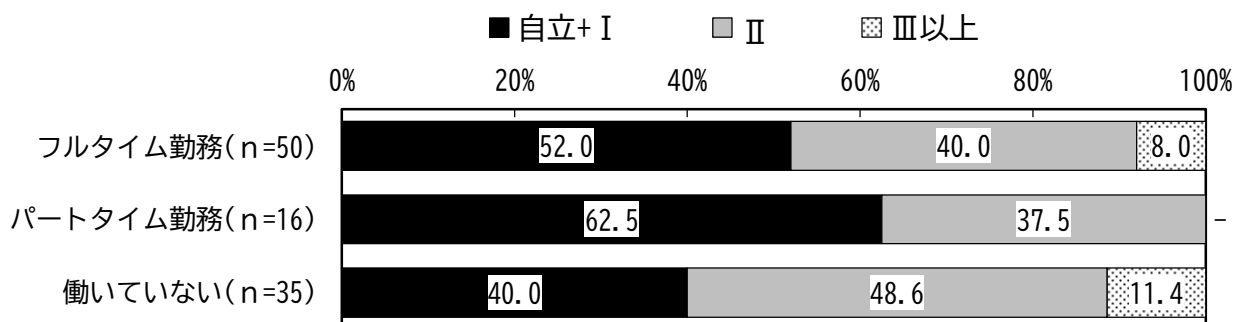
○要介護度を主な介護者の勤務形態別にみると、すべての勤務形態で「要介護1」の割合が最も高くなっています。

図表20 主な介護者の勤務形態別 要介護度



○認知症高齢者の日常生活自立度を主な介護者の勤務形態別にみると、“フルタイム勤務”と“パートタイム勤務”ともに「自立+I」の割合が最も高くなっています。

図表21 主な介護者の勤務形態別 認知症高齢者自立度



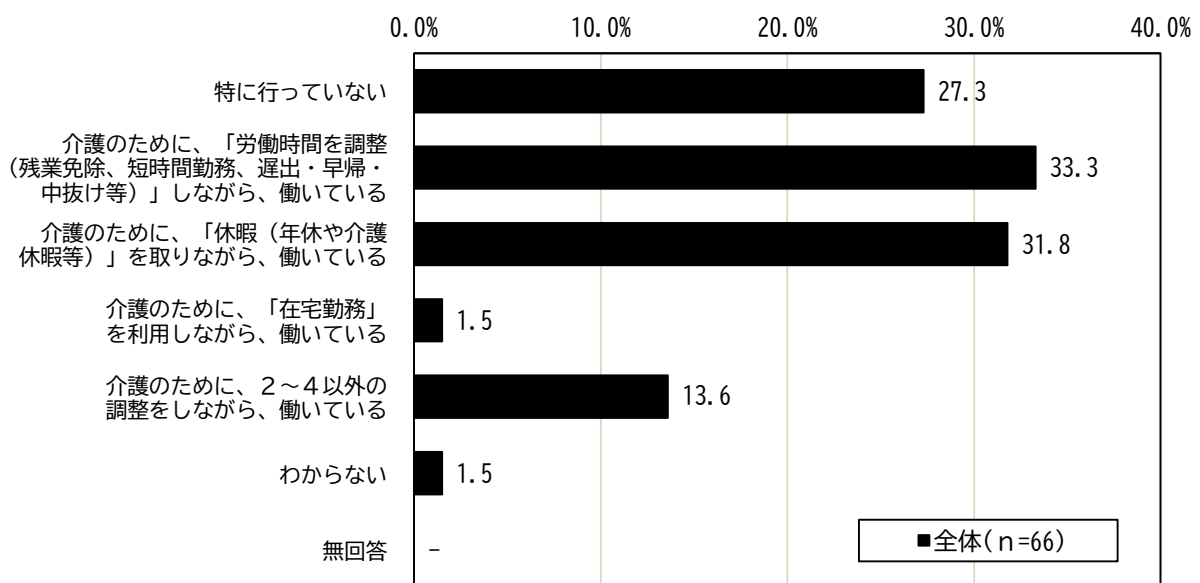
(2) 主な介護者の働き方の調整状況

問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

【問1において「1」「2」と答えた方のみ】

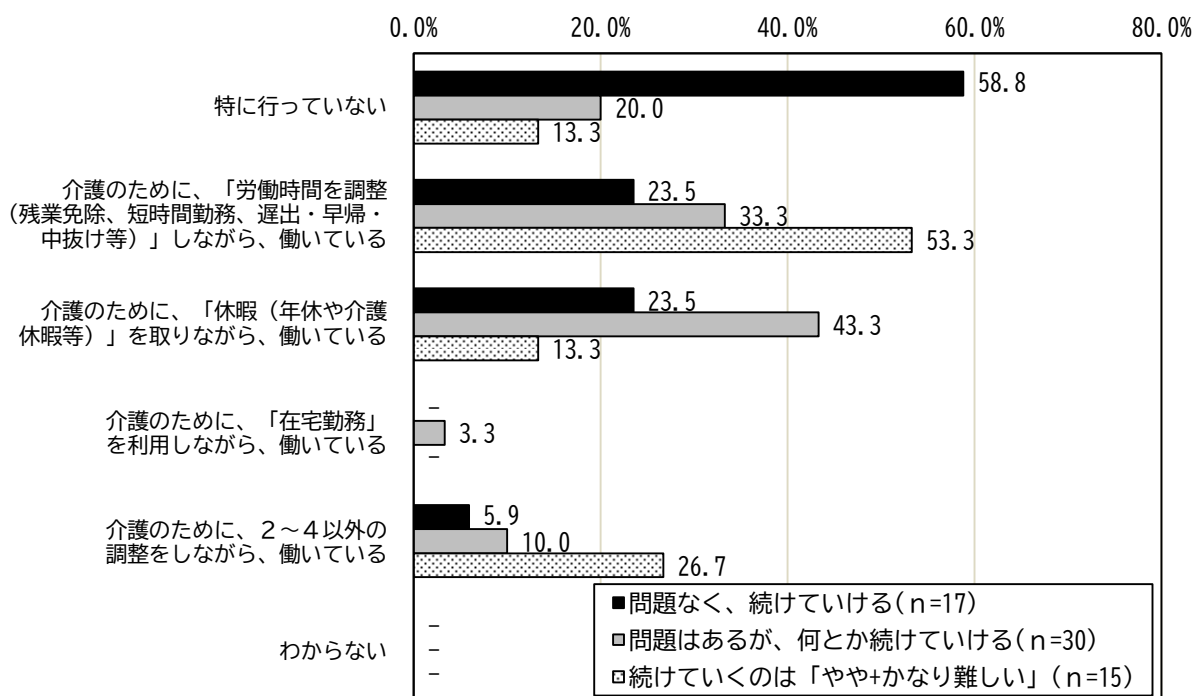
○「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（33.3％）の割合が最も高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（31.8％）、「特に行っていない」（27.3％）の順となっています。

図表2.2 主な介護者の働き方の調整状況



○主な介護者の働き方の調整状況を、主な介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、“問題なく、続けていける”では「特に行っていない」(58.8%)、“問題はあるが、何とか続けていける”では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」(43.3%)、“続けていくのは「やや+かなり難しい」”では、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」(53.3%)の割合が最も高くなっています。

図表23 主な介護者の就労継続の可否に係る意識別
主な介護者の働き方の調整状況（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



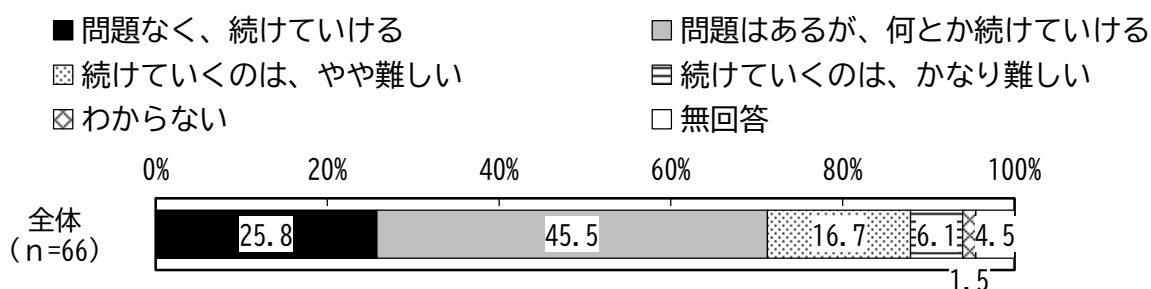
(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

【問1において「1」「2」と答えた方のみ】

○「問題はあるが、何とか続けていける」(45.5%)の割合が最も高く、次いで「問題なく、続けていける」(25.8%)、「続けていくのは、やや難しい」(16.7%)の順となっています。

図表24 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

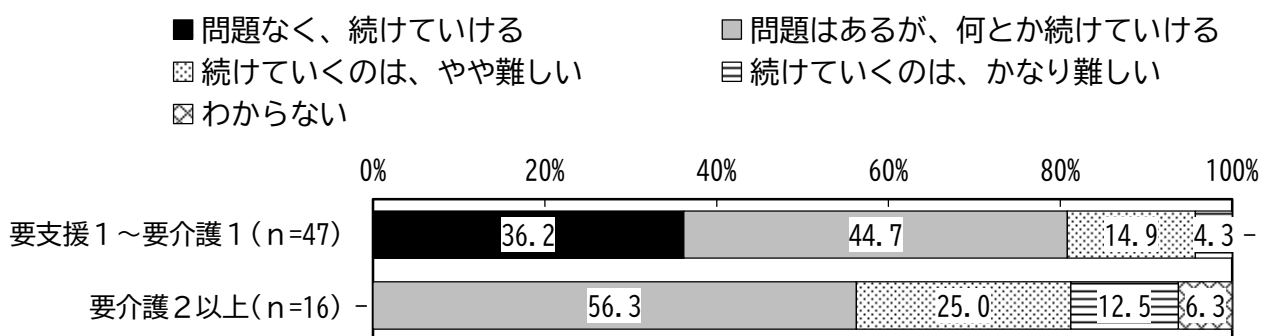


○要介護度別にみると、“要支援1～要介護1”“要介護2以上”ともに「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。

○「続けていくのは、かなり難しい」は“要支援1～要介護1”では4.3%、“要介護2以上”では12.5%となっています。

図表25 要介護度別

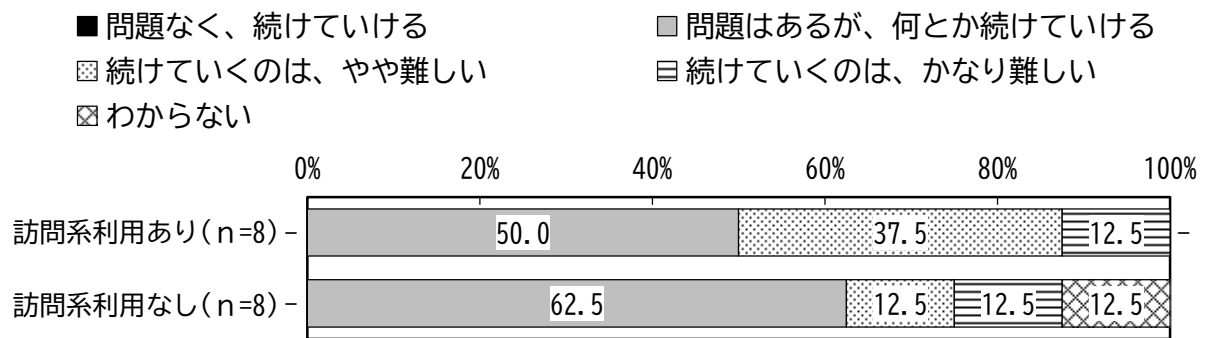
主な介護者の就労継続の可否に係る意識(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



○訪問系サービス利用の有無別にみると、“訪問系利用あり”“訪問系利用なし”ともに「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。

図表26 訪問系サービス利用の有無別

主な介護者の就労継続の可否に係る意識（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

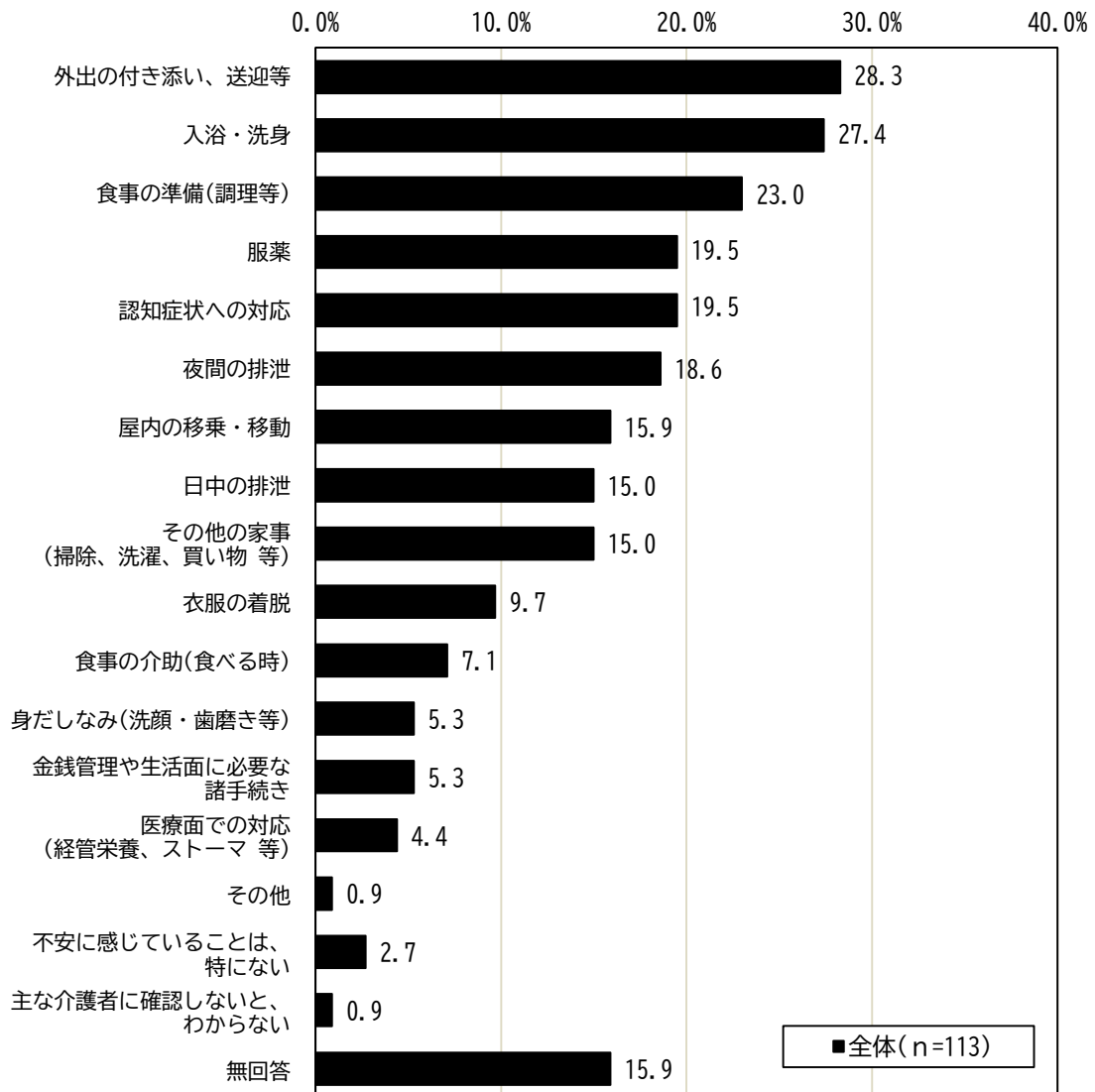


(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

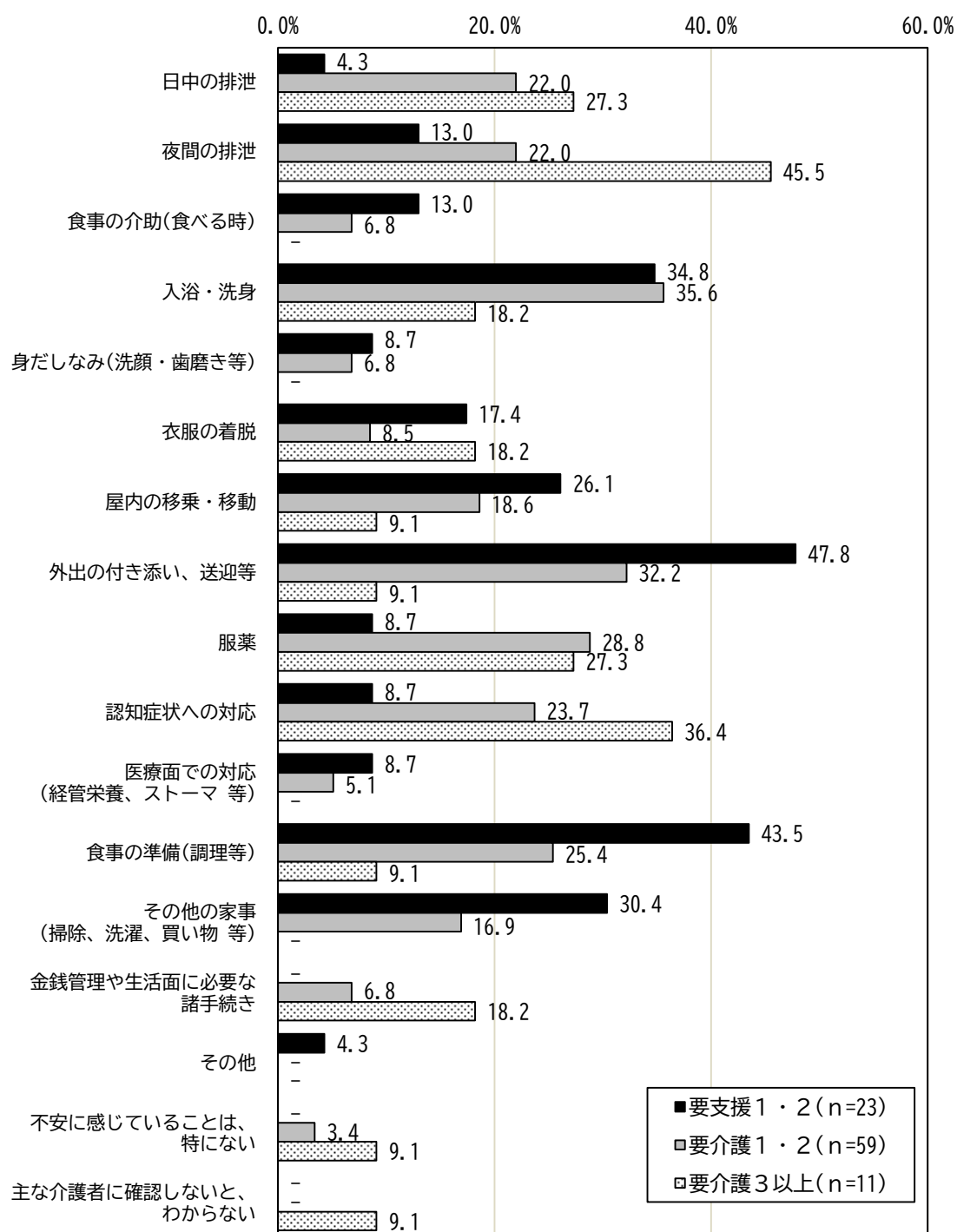
○「外出の付き添い、送迎等」(28.3%)の割合が最も高く、次いで「入浴・洗身」(27.4%)、「食事の準備(調理等)」(23.0%)の順となっています。

図表27 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



○要介護度別にみると、“要支援1・2”では「外出の付き添い、送迎等」(47.8%)、“要介護1・2”では「入浴・洗身」(35.6%)“要介護3以上”では「夜間の排泄」(45.5%)の割合が最も高くなっています。

図表28 要介護度別
今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



第2章 調査結果

○認知症高齢者自立度別にみると、“自立+Ⅰ”では「入浴・洗身」(39.1%)、“Ⅱ”では「服薬」(41.0%)、“Ⅲ以上”では「服薬」と「認知症状への対応」(ともに50.0%)の割合が最も高くなっています。

図表29 認知症高齢者自立度別
今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

